

## 〈幽霊航空〉から〈ロリータ急行〉まで：

### J・エプステーン - ビル・クリントン関係の起源と進展

【訳者注】これは40頁ほどの、4部からなる長い論文 *The Jeffrey Epstein Scandal: Too Big to Fail* の1部の冒頭だけが、Information Clearing House に紹介されたものである。これを読むだけで、十分な全体の要約になっていると思う。

1部のタイトルは上記の通り——2部：「メガグループ、マックスウェル、およびモサド：エプステーン・スキャンダルを中心にあるスパイ物語」——3部：「ゆすりによる政府：ジェフリー・エプステーン、トランプの助言者、およびレーガン時代の暗い秘密」——4部：「丸見えの隠れん坊：エプステーン事件のショッキングな起源」

「泥沼」という言葉が、これ以上壮大に、大規模に当てはまる世界はなく、これ以上サタンの徹底した悪の世界はないだろう。「ゆすりによる政府」とは、この悪の政府組織に認められ、活動するためには、政府の要求する悪の試験を受けなければならないということで、ビル・ゲイツが「ロリータ急行」に乗り込んだのは、それだと考えられる。これは暴力団が、指をツメさせる行為と同じだろう。私はこれを、幕府による「踏み絵」（国家による強制サタン行為）に喩えたことがあるが、そこで述べたことと、ここに言われていることは本質的に変わらない。「トランプ豹変の論理」[http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170427\\_2.pdf](http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170427_2.pdf)

Whitney Webb

August 26, 2019, Information Clearing House



これは一つの政党、情報局、または国家の仕事などでなく、エプスティーンにつながるネットワークによって明るみに出た、この権力構造は、もっと大きな権力や富や支配を追求するために、子供たちを喜んで利用し、虐待する、一つの犯罪企業に他ならない。

8月10日と、その後数日間、ジェフリー・エプスティーンが彼の独房で死んで発見されたと通告されて以来、憶測が飛び交った。彼の死因は、公的には、首つりによる自殺だと断定されている。

億万長者でペドファイル、かつ性取引業者で、アメリカやいくつかの他の国の、富や権力をもつ者との、数知れぬつながりをもつエプスティーンは、彼の突然の「自殺」以前に、近い人々に対し、自分は殺されることを恐れていると語っていたことを、ワシントン・ポストは報じた。一方、彼の弁護士たちは、彼は連邦政府と協力する計画を立てていたと主張した。

ニューヨーク検視官による、エプスティーンの死は自殺だったとする、反論の多い結論に続いて——この結論は、エプスティーンの弁護士から反論されているだけでなく、絞め殺されたことを示す明らかな証拠があって、独立した法医・病理学者も反論している——エプスティーン事件を扱う企業メディアも、次第に同調するようになった。ただ、彼の共・陰謀者と言われる Ghislaine Maxwell のセンセーショナルな話や、彼の過去の新しい好色話は別である。企業メディアについて奇妙なのは、エプスティーンが「情報部に属していた」という確認のまわりに転回する、より大きなスキャンダルについて、全く何の話題も出さないことである。

この4部からなるシリーズ『ジェフリー・エプスティーン・スキャンダル：大きすぎて倒れようがない』において、ミント出版社が明らかにしたことは、エプスティーンの活動——未成年者を巻き込み、情報諸部局につながった、性的ゆすり作戦——は、何十年も前から行われてきた、多くの、このような作戦の一つであり、第二次大戦直後から、CIA、組織犯罪、それにイスラエル情報局の間に醸成された、〈きずな〉から発展してきたものだということである。<https://www.mintpressnews.com/category/epstein-investigation/>

このシリーズの第2部が明らかにしたように、これらの性的ゆすり作戦は、イラン-コントラ事変の間に盛んになったもので、それは、この同じ、米/イスラエル情報部と組織犯罪の間の、暗黒の友好関係を巻き込んでいた。このシリーズは、ここまでは、共和党の役職者と、そのような作戦や関連犯罪とのつながりに、大きく焦点を当ててきたが、このシリーズの最後の部分は、民主党の政治家、すなわちクリントン一家、それに、彼らのエプスティーンのみならず、この同じネットワークとの、つながりに焦点を置くであろう。

<https://www.mintpressnews.com/blackmail-jeffrey-epstein-trump-mentor-reagan-era/260760/>

クリントン自身のイラン・コントラへの関与は、アーカンソー州のメナ空港での、隠密の活動をめぐって転回した。そこには、CIAのフロント会社「サザン・エア・トランスポート」が関わっており、クリントンが知事のときに起こった。クリントンの大統領政権が始まって、しばらくして、レスリー・ウェクスナーとジェフリー・エプスティーンは、「サザン・エア・トランスポート」を、オハイオ州コロンビアへ移転させるという、大きな役割を果たした。これは、オハイオ州役人に不安を与えたもので、この2人がCIAと組んで働くというだけでなく、ウェクスナーの会社が、このCIAにつながる航空会社を密輸に使うという話であった。

その同じ期間の間に、エプスティーンはすでに、重要なクリントンのホワイトハウス役人や、Lynn Forester de Rothschildのような、目立ったクリントンへの寄付者と、緊密な絆を結び、公的な大統領住宅に、数回の個人的訪問を行っていた。

これらの絆のいくつかは、エプスティーンのいかがわしい財政活動、特に通貨マーケットや、オフショアの「タックスヘイヴン」に関わるものに、関係していたようである。これは彼が完成し始めていた活動であると同時に、一方で、1980年代初期の、著名なイラン・コントラの人物のために働いていた。その何名かは、CIAにつながった銀行、「国際商業信用銀行」(BCCI)につながっており、イスラエルの情報部、すなわち「モサド」との関係を知っていた。エプスティーンの、これらの個人や、他の証拠のための、仕事の性質は、エプスティーン自身が「ベア・スターンズ」(アメリカの大投資銀行)を去り、この銀行が1991年に倒れる前に、BCCIとの関係をもっていたことを示唆する。

特に重要なのは、エプスティーンの、クリントン財団との関係、ヴァージン島を拠点にしたヘッジファンドの、エプスティーンの役割と言われるもの、またマネー洗浄活動をしているクリントン財団であり、これらは、いまだにMintPressが調査中の関係である。

**この陰謀物語によって初めて十分に明らかになるのは、この何十年に及ぶ、組織犯罪、CIA、それにイスラエル情報部が、2つの政党の政治家を、性的ゆすりや他の強制手段によって、腐敗堕落させ影響を与えてきた、その規模の大きさである。**

これは、一つの情報局や一国家の仕事なのではない。エプスティーンにつながったこのネットワークによって暴露された、この権力構造は、国籍を越え、もっと多くの権力、富、支配を求めて、平然と子供たちを利用し、虐待しようとする一つの犯罪企業に他ならない。数十年も存在しつづけ、その跡をくらすためには、どんな手段でも用いるこの犯罪組織

は、アメリカやそこを越えた所で、この権力装置の中に深く統合されていて、あまりにも大きく、倒れようもないものになっている。先へ続く：

<https://www.mintpressnews.com/genesis-jeffrey-epstein-bill-clinton-relationship/261455/>